

2018年11月5日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 林 希一郎

ミャンマー国チャウセ・ガスコンバインドサイクル火力発電所建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2018年10月1日(月) 14:01~17:14
- ・場所：JICA 本部 (1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：林委員、源氏田委員、作本委員、柴田委員
- ・議題：ミャンマー国チャウセ・ガスコンバインドサイクル火力発電所建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) ミャンマー国チャウセ・ガスコンバインドサイクル火力発電所建設事業 SC 案(WG 資料)
 - 2) 回答表及び別添資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第96回委員会)

- ・日時：2018年11月5日(月) 14:00~17:01
- ・場所：JICA 本部(1階 113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. ミャンマー国のエネルギー開発及び気候変動対策にかかる方針を確認し、ガス火力発電所の建設による電力供給能力の強化が強調されている理由を DFR に記述すること。
2. 本事業の供用中において、レンタルベースのチャウセ 135MWガスエンジン発電所との累積的影響が生じる可能性が判明した場合には、適切に対処するよう実施機関に申し入れること。

代替案の検討

3. 計画地に係る代替案の検討結果の総合判断については、大気汚染、自然環境、社会配慮等の記載を充実させ、評価結果を比較検討した結果を示すなど、採択案の根拠に関してより詳細に DFR に記述すること。

スコーピング・マトリクス

4. ステークホルダー協議等の場において、少数民族・先住民族の有無を再確認し、そのライフスタイル・社会文化に悪影響を及ぼさないよう適切に対応すること。
5. 空冷式の冷却設備から生じる温排気及び騒音について必要に応じて影響を検討しその結果を DFR に記述すること。
6. 取排水設備及び送電線との関連で用地取得が実施される場合には、その取得規模も含めて DFR に記述すること。

環境配慮

7. ミンゲ川の取排水設備周辺を含めた本事業地における自然環境に関するデータについて、現地調査等を通じて適切に把握し、DFR に記述すること。
8. 発電所からの排水について、大気温及び排水先のミンゲ川の水温との差異を調査し、その結果及び必要な対応策を DFR に記述すること。
9. ミャンマー国および IFC において振動基準が設定されていないので、日本国等の基準を準用する旨、DFR に記述すること。

社会配慮

10. 農作物の作物補償に関する手続き、責任機関、補償基準について確認し、DFR に記述すること。

以上